

平成 13 年 3 月 15 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

カザフスタン共和国 北カスピ海鉦区カシャガン構造における試掘第 2 号井について

本日、インドネシア石油株式会社は、同社子会社インペックス北カスピ海石油(株)を通じて探鉱事業を推進しているカザフスタン共和国 北カスピ海鉦区において、試掘第 2 号井「カシャガン・ウエスト-1」(Kashagan West-1) で電気検層の結果、油・ガスの存在を検知したことを発表した。

これは、同国シュコルニク副首相兼エネルギー天然資源大臣が掘削リグ“サンカー”を訪問した機会を捉えて行ったものである。

本坑井は、同国アティラウの南 75km に位置し、2000 年 10 月 7 日に開坑し、4,982m まで掘削した。

本坑井での電気検層作業の終了に伴い、現在産出テストを準備している段階であり、これまでに検知された炭化水素の性状並びにカシャガン構造の地質特性については、今後予定される産出テストにより明らかになる見通しである。

本坑井は、既に昨年 7 月、原油を発見している試掘第 1 号井「カシャガン・イースト-1」(Kashagan East-1)に続く カシャガン構造に対する 2 番目の試掘井であり、カシャガン・イースト-1 から 40km 離れている。

今後の作業計画としては、本年第 2 四半期(4-6 月期)に本井の作業を終え、その後同構造の評価のための一連の評価井の掘削作業を実施することとしている。

本プロジェクトは、当社を含む日米欧 9 社の国際コンソーシアムがカザフスタン共和国と締結した生産分与契約にもとづき推進している探鉱・開発事業である。

※) 補足説明

1.北カスピ海鉦区は、東部約 4,300km²、西部約 1,275km²（合計約 5,575km²）の 2つのブロックよりなり、本カシャガン構造は、カザフスタン共和国アティラウから南東約 75km のカスピ海域に位置する 水深 3～5m の東部ブロックにある。

2.本鉦区には、石油・ガスを胚胎する可能性の高い複数の大規模な構造が存在しているが、その中でも最大規模のカシャガン構造の東部で試掘第 1 号井 「カシャガン・イースト-1」 (Kashagan East-1)の 掘削を行い、 2000 年 7 月に同坑井で産出テストを実施した結果、日産 3,774 バレルの原油並びに日産 706 万立方フィートの 天然ガスの産出を確認した。

3.インドネシア石油(株)は、1998 年 9 月に本鉦区の権益の 1/14 をカザフスタンの国営石油会社 KCS (Kazakhstan Caspi Shelf) 社から弊社の子会社である インペックス北カスピ海石油(株)を通じて取得し、欧米コンソーシアム (British Gas, BP Amoco, ENI, ExxonMobil, Phillips Petroleum, Shell, Statoil, TotalFinaElf) の一員となった。
なお、同鉦区でのオペレーターは、今般、共同操業会社である OKIOC より伊国 ENI に交替した。